

# 柧の木からの手紙

2024年 卯月 4月号



上下3月 25日作業



- 4日： 清明
- 9日： 新月 :旧 3月 1日
- 19日： 穀雨
- 24日： 満月 :旧 3月 16日

## 【 雪融け 】

2月下旬の暖気の時2/25日に普通のトラクターに肥料散布機を付けて早くも融雪剤を散布した（通常はキャタピラの融雪剤散布機を使う）。でも、暖かい様でいて寒い。融けて少なくなった雪が寒気で凍て地表を覆い融けづらくなっている。その後、少しでも雪面が黒っぽくなったら融雪が進むだろうという思いから、早く作業を進める畑には2度3度と残った融雪剤や残った醗酵鶏糞ペレット3号を3/10日に芋畑に投入したり、粒状脱脂米糠3/25日、新農場物語3/28日早朝といった有機質資材を暖気に合わせてビート予定の畑に投入していった。しかも、3月25・28日には融雪剤散布機を使っている。28日以降の暖気は、魔法の様に積雪を融かしていった。31日には自然農法畑で7割、他の畑で9割近く雪融けが進んでいます。



3月28日



3月29日



3月30日



3月31日

雪融けは、上グラフの様に気温が昼も夜も一日中プラスになる様になると速やかに進む。

【 越冬エン麦、春の様子 】



左写真は一般の畑ですが、昨年夏に小麦を収穫して9月中旬に緑肥のエン麦を播種し冬前に排水の為の心土破碎を行って越冬させた初めての試み。

エン麦は緑のまま冬を迎え次第に枯れ、雪の下に埋もれます。雪融け後現れた越冬エン麦の様子。

枯れたエン麦に糸状菌が繁殖して雪が融けた後も雪が残っている様に見えています。

自然農法・有機JASの畑、越冬エン麦の栽培2年目。



左の写真の中央から右側は越冬エン麦の畑。左側は一般の畑でビートの収穫後。

枯れたエン麦には菌糸が綿の様に絡まり、融雪剤代わりに散布した醗酵鶏糞や米糠も分解が始まっています。

【 この冬の赤ビーツの状況 】

赤ビーツ出荷量と残数・廃棄量

2024年3月31日 残数		出荷先別出荷量		
100 g 台	20 kg	20230918 から 20240331		
200 g 台	100 kg	出荷先	出荷量	出荷割合
300 g 台	280 kg	加工向け	508.1 kg	47.6 %
400 g 台	240 kg	COOP札幌	294.7 kg	27.6 %
500 g 台	260 kg	大空町ほのか	24.6 kg	2.3 %
600 g 台	120 kg	ポッポ屋	84.1 kg	7.9 %
700 g 以上	0 kg	ふるさと21	146 kg	13.7 %
		一般	9 kg	0.8 %
外品	300 kg	合計	1066.5 kg	100.0 %
残数	1320 kg			29.3 %
出荷	1066.5 kg			23.7 %
廃棄	2113.5 kg			47.0 %
合計	4500 kg			100.0 %



2回に分けて播種して移植した2反4畝の赤ビーツ。年毎に赤ビーツの広まりを感じてはいますがまだまだマイナーな作物。出荷量は収穫量の25%程。50%近くが廃棄されています。まだ残数が30%程ありますので、廃棄量が70%前後になる予想です。今年の作付は、昨年のおよそ半分の面積で4月中旬の1回播種で進めようと思います。それでも、ふるさと21のネット販売で加工品の販売が始まった事は赤ビーツ販売のプラス要因になっています。